

平成 21 年 1 月 17 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム
平成 21 年 第 1 回講話

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

良い正月を迎えられましたでしょうか。

私は良い正月でした。12 月 30 日から 1 月 4 日まで、毎日会社に出ておりました。年末年始は神社仏閣、スーパー等にガードマンが出ますから、普段と比べて非常に忙しい時期です。間接職が動員されて必死に現場で仕事をしておりましたので、私も何かしようと思い、留守番代わりに会社に出ました。普段出来ない仕事ができますし、見えないものが見えて良かったと思っています。

では、恒例の質問に参ります。

「昨日一日嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

日常生活を送る上で、これは嘘だなと思いつつ行動する場合があります。時々心がチクチクと痛むわけです。嘘をつかないと自分に言い聞かせて、嘘をつかない人生を毎日毎日繰り返していくと楽です。誰かに嘘をつく、その嘘を隠さんとするために又、上塗りの嘘をつく。麻生さんを見てご覧下さい。一つの嘘をついたがために、何度も何度も恥の上塗りをしている。嘘をつかないという事は、自分の心が非常に爽やかで、良い一日、爽やかな動きができます。結果として仕事も順調にいきますから、嘘をつかない毎日は非常に良いことだと思えます。

「昨日寝る時に、今日は良い日だったなと思って眠れた方、どれくらいおられますか」

(・・・沢山手が挙がる)

もう一つ質問します。これはなかなか難しいのですが、

「昨日一日、有難うと言い、誰かから有難うと言われた方はおられますか」

・・・結構いらっしゃいますね。皆さん素晴らしい。

「有難う」と言われるのは結構大変です。

昨年の12月20日に、来年実現したい項目を8つ考え、グループウェアで発表しました。

その中の一つで、来年は、嘘をつかないの確認を<嘘をつかない運動>にしようと考えています。運動というのは自分の身の回りの方に声をかけることですから、皆さん御自分の家族や親戚の方、会社の方、近所の方に広げて欲しいと思っています。

今年一年間、中斎塾フォーラムで実現したい8つの項目を申します。

1、知識・見識・胆識を身に付けた方、判断の三原則（本質・大局・歴史）を身につけた方がどんどん増えること。

2、総合的直観力を研究して下さる方が、フォーラムから数名出て下さると有難い。

先ほどお話を伺ったら、北関東フォーラムの中に研究会が出来るという事ですので、そこで総合的直観力についても考えて下さればと、非常に楽しみにしています。

3、女性会員がもっと増えて、幹事や理事になって下さると有難い。

4、新たなフォーラムをもう一ヶ所開設し、知足の心を広げる機会を創ること。

5、年次大会・春季合同フォーラム・秋季合同フォーラムを定着させて、確立すること。

6、季刊誌『知足』の購読者を増やしたい。

今年最初の季刊誌には、干支の話が書いてありますので、「欲しい」と言って下さる方が結構おられます。今年己丑(きちゅう)です。「己」は、長い糸が絡まりあって解けない状態。「丑」は、ゆっくりではあるけれども、正しい道を歩み始めるという意味です。そう考えると、今年は出口の見えない不況のトンネルに入って、出られない年回りです。最後までトンネルから出られない、解決策がない年だと安岡干支学から見えています。

その話を或る銀行の頭取と会って致しましたら、その頭取が、「实体经济から見て私もそう思います」と言っておられました。アメリカのビッグ3に関しても、一つくらいは潰れて当たり前だという認識でも一致しました。

今年、平成21年は悪い年です。来年も悪い。その次の平成23年は、地獄の釜の底を抜いて、垂直に景気が落ちてゆく。平成24年から乱高下ですが上昇気流です。

・・・こういう内容を干支学から予測して、季刊誌『知足』の1月1日号に掲載してあります。まだお読みでない方は、どうぞ御一読下さい。

7、先ほど申しました、<嘘をつかない運動>を広げる事。

8、フォーラム会員同士の親睦をもっと図りたい。

では、レジメにしたがってお話致します。

私の好きな言葉に「利によりて行なえば、怨み多し」があります。自分だけ欲しい・欲しいと欲張って何か行動すると、必ず後でしっぺ返しが来ます。

先ほど素読をして戴きましたが、その中にも私の好きな論語の台詞がいくつもありました。皆さんも“おやっ”と思う言葉が一つでも見つければ、しめたものです。

本日はその中から、「心に残る言葉」を選びました。

子曰く、君子は周しゅうして比ひせず。小人は比ひして周しゅうせず。

(為政第二 通三十)

良い人物・素晴らしい人物は、誰とでも親しくするけれども馴れ合ったりしない。初めて会った人に、「・・ちゃん」などと呼んだりしますと、何となく仲良くなったような気がします。それは馴れ合うという事です。小人物は、すぐにそういった事をします。しかし本当に親しい付き合いにはならない。本当に親しい付き合いをする時には、「親しき仲にも礼儀あり」という付き合いがよろしいという事です。したがって小人同士の集りで目先の利益だけで繋がると、すぐに又、離れてしまいます。

本日紹介する本は、宮田矢八郎さんの書かれた『禅資本主義のかたち T K Cモデルの研究』です。飯塚毅さんというT K Cの創業者の事を書いています。飯塚さんという方は、「私は嘘をつきたくない。数字は嘘をつかないから、数字を扱う職業に就きたい」という理由で税理士になったそうです。非常に親近感が湧きましたし、本の内容が大変良いので紹介しました。

では、本日のテーマ、知識・見識・胆識にうつります。

人は生きていく上で、色々な情報が沢山入ります。テレビ・新聞・ラジオ・人様の話・・・これらは皆、知識になります。ただその知識をどう受け止めるか、テーマが必要です。

私は今回、知識・見識・胆識を考えるにあたって、テーマを決めました。昨年暮れから新型インフルエンザに関する質問が多かったので、新型インフルエンザをテーマに、知識・見識・胆識を考えようと思います。お配りしたレジメを御覧下さい。

まず知識として、どういう事を知識として持たなければならないか、お話します。

過日、北京で鳥インフルエンザにかかって亡くなった19歳の女性がいました。その人に接触した人間が120名とも160名とも言われていますが、実数は分かりません。中国の発表する数字ですから信用し難いのですが、百数十人はいると思います。

その後の話がなかなか出ませんので、中斎塾参与に話を聞きました。参与は昨年、新型インフルエンザに関する勉強会を開いて欲しいと頼まれて、2月に中国に行こうと予定していたそうですが、周囲から中国行きを止められたそうです。その記事が出て、中国の日系人社会は今、パニックになっているとの事です。中国に住んでいる日本人から、日本政府は何をしてくれるのか、自分たちはどうすれば良いのかといった激しい要求が出されているといいます。

中国政府が一番困っている事は、万が一、死亡した女性が潜伏期間中に接触した人間の誰かが新型インフルエンザにかかっていた場合、1月末の旧正月で、2億人くらいの人達が田舎に帰りますから、中国全土にわたって新型インフルエンザが蔓延する事になります。内々の話として伝わっているのは、列車を封鎖して収めようとしているようです。接触した人間が分かっていますから、その人が乗った列車を途中で止めて、医者や看護婦を中に送り込んで調べるわけです。そして38以上の発熱、腹痛や下痢などの症状が出ていれば、その列車ごと隔離して、それなりの手当をするという話です。しかし手当の仕様がなないわけです。有効な手立てがなければ、列車はそのまま止めたまま、乗っている人は全員死亡する可能性が高いと思います。

参与は北京に行こうとして関係者に止められたそうです。鳥インフルエンザが発生した地域へ行くという事は、罹患する可能性が非常に高まるのだから、危機管理上そこへは行ってはいけないのが大原則であると言われたそうです。

ちなみに参与は、新型インフルエンザの対策として会社の近くにマンションを借りたそうです。新型インフルエンザが発生した場合、一番うつりやすいのは満員電車に乗ることですから、それを避けるために、歩いて会社に行ける場所に住まいを借りたのだそうです。

今、お話しているのは、知識の部類です。レジメの<知識のワクチン>を御覧下さい。

・感染率と致死率

皆さんは新型インフルエンザについてどれくらいご存知でしょうか。感染率と致死率について、正確な数字をご存知の方はいらっしゃいますか？

日本政府は、人口の25%が感染し、感染者の2%の64万人が死亡すると発表しています。ところがオーストラリアのロウイー研究所の発表では、「日本では210万人が死亡する」となっています。アメリカの研究機関の発表では、死亡者は240万人との事です。桁が違います。

日本政府が発表する数字の元は、国立感染症研究所が出しているデータです。しかし国立感染症研究所は、64万人よりもずっと多くの人数が死亡する可能性を声高に主張してい

ます。今年に入ってから日本政府は、委員会を設置して2%・64万人の数字を討議し、上方修正するという発表をしました。

・64万人死亡の根拠であるスペイン風邪

死亡者数64万人という数字は、スペイン風邪が根拠になっています。日本では、1918年（大正7年）8月にスペイン風邪が大流行しました。38万人から45万人が亡くなったと言われています。死亡者数に幅があるのは、実際にどれだけの人間が罹患し、どれだけの人間が死んだかという資料が焼けてしまって残っていないのです。

当時、世界の人口が18億人で、感染した人が5億人から10億人、死亡した人が4000万人から8000万人、もしくは1億人と言われています。

日本は5500万人の人口で、感染した人が2300万人、亡くなった方が38万人から45万人というデータが残っています。それを元にして、新型インフルエンザの推測値が出ています。

今は、新型インフルエンザという爆弾の導火線に火がついて、どんどん火が爆弾に近づいている状態です。中国の死亡した女性が仮に新型インフルエンザであるとして、WHOが新型インフルエンザが発生したと発表した段階（フェーズ4）では、中国からだ3日から4日で日本に入ってくるそうです。その後日本全国に感染が広がるのに1週間だと聞きました。これは、新聞等にシミュレーションが出ています。

感染して3日間は潜伏期間で、4日目から発症するそうです。新型インフルエンザが世界のどこで発生しても、即、日本に来ます。いくら遅くても1ヶ月あれば十分日本に到達し、日本全体に広がるわけです。

・スペイン風邪対応の悪い例と良い例（フィラデルフィア市とセントルイス市）

スペイン風邪が流行した当時は、ワクチンなどありません。アメリカには1918年にスペイン風邪が到達しました。第一次世界大戦中です。この時に、早期の封じ込めがいかに重要かという事例が出ています。悪い対応例はフィラデルフィア市、良い対応例はセントルイス市です。

セントルイス市の方を申します。1918年10月4日に、12人に1人の割合で兵士がスペイン風邪を発病したと公表しました。翌日10月5日の新聞に、7家族でスペイン風邪が発生したと掲載されました。2日後に900人の兵士が発病し、市内で115人が発病したと出ています。

セントルイス市長は1名死亡者が出た時に即、非常事態宣言を出しました。強制力を持って学校を閉鎖し、劇場を閉鎖、教会も閉鎖しました。公共の場での集会を禁止し、ホテルやカフェでのダンスを禁止、病院受診の一時停止、子供達の遊技場や図書室の入室禁止、大型の会議はキャンセル、電車の運行禁止・・・これらを即座に実施しました。市長が強権発動をし、保険局長が見解を出して、議会がそれを受け入れたわけです。市長・保険局長・議会と、三位一体で動いた結果、自発的な動きとして裁判官が裁判を延期したり、大学がフットボールの試合を中止するとか、結婚式を延期する人まで出ました。結局77万9951名の人口で、死亡者が3000人台で済んだのです。新型インフルエンザの発生となった瞬間に、人混みをすべてなくした結果です。特にその中で注目するのは、11月9日から4日間、都心部をゴースタウン化する指示をした点です。全部止められて、何も動かないわけです。ただし、食糧の供給、病院、軍隊は手を付けなかったそうです。当時は第一次世界大戦の真っ最中なので、このような動きは、政府からすると反国家的な動きになるわけですが、それを撥ね退けながらの英断だったわけです。

11月18日にすべての禁止令を解いたとありますから、10月4日から2ヶ月弱で一旦終息をしました。外国は意外と早く終息しています。日本のスペイン風邪は、発生してから終息までに1年弱かかりました。

セントルイス市が3000人台の死亡者だったのに対して、フィラデルフィアは7倍から10倍の人が死んだといえます。その理由は、即座に人混みを停止できなかったからです。スペイン風邪の死亡者が数人出ているにもかかわらず、20万人を超える戦勝記念のイベントを挙行してしまいました。その翌日から患者が病院に溢れかえったといえます。結果としてセントルイス市の約数倍もの人が亡くなったのです。

セントルイス市の市長の立場で考えれば、<多くの人死ぬような、相当怖い伝染病らしい>という知識はあるわけです。これはフィラデルフィアの市長も同じだと思います。ただ、見識が違ったのです。そういう怖い伝染病が発生した場合、市全体でどうすべきか対策を考えるのが見識です。胆識になると、相当な反対があるだろうけれども、その反対を押し切って、自分の命を懸けて実行する。現実にセントルイス市の場合も、ビジネスをしている人や教会から、かなり反対があったようです。反対者は次から次に出てくるけれども、断固排除して自分の考えた見識通りに実行する為には、相当な信念がなければ出来ません。相当な信念は、確かな知識に基づいた見識が必要です。

日本のスペイン風邪の話をお話します。第一波が、大正7年8月から8年7月までの約1

年です。2100 万人がかかり、25 万 7000 人が死亡しています。第一波の時には、もの凄
い数の人間がかかりました。第一波が終息して第二波に移るのに 2 ヶ月くらいしかありま
せんでした。大正 8 年 10 月から大正 9 年 7 月までの第二波は、240 万人が感染して 12
万 7000 人が死亡しています。感染した人数は少ないけれども、死亡者は急激に増えてい
ます。これは少し甘く見た結果だと思えます。第三波は、大正 9 年 8 月から大正 10 年 7
月までの間で、患者数が 22 万人、死亡者が 3698 名です。完全に終息に入っています。た
だ、又すぐに再燃をしています。

第一波の時は、全人口の 40%の患者が出たという事ですから大変な事です。今の新型イ
ンフルエンザと似通っているのは、その時の年齢別死亡率の第一位は 21 歳から 30 歳です。
その次は 11 歳から 20 歳、次いで 31 歳から 40 歳となっています。若い人ほど死ぬという
点で、同じです。

・感染のスピードと、発病から死亡まで

先ほど申しましたように、1 ヶ月あれば日本に来てしまいます。そして日本全体に広が
ります。かかったら、非常に極端な言い方ですが、死ぬと思って対応した方が良いでしょう。
う。

・どうすれば生き残れるか？

死なない為には、新型インフルエンザにかからない事です。かからない為には、自宅か
ら出ない事です。家族の誰かが新型インフルエンザにかかって、自宅に持ってきた場合は、
残念ながら駄目ですね。国立感染症研究所の岡田晴恵先生の書かれた資料では、「お父さ
んは会社に泊まりこむ、お母さんは家から出ない、子どもは 3 ヶ月間程学校を休む」とい
う内容の具体例があります。

はっきりわかる事は、人ごみには近寄らないことです。できれば、自宅に 3 ヶ月間は籠
城する。そうすれば助かります。

以上、私が申し上げているのは知識です。知識・見識・胆識の一番根っこには、意思が
ありますから、死にたくない・絶対に生き残るといふ明確な意思を持っている人が知識を
吸収し、見識を生み、胆識をお持ちになる事となりましょう。

皆さんは今年の目標を立てたと思えます。私は 3 つ気にしているものがございます。一

つは経済危機に対する備えです。二つ目は新型インフルエンザに対する備え。三番目は巨大地震がそろそろ起きる危険性があると思っています。

その中の大きなものが新型インフルエンザですので、今日お話ししています。

では、レジメにそって、＜家庭での対策＞をお話します。

これは殆ど知識ばかりです。本や新聞や雑誌に出ているものより、極端な書き方をしています。例えば新聞等では食糧を2週間備蓄した方が良いとありますが、私は3ヶ月と書きました。これは巨大地震や経済危機も頭に入れて書いてあるからです。

先ほど申しました本を回覧致します。この中に「これだけは備えておこう備蓄品アイテム」という部分がありまして、マスクが載っています。このマスクは住友3Mという会社のマスクですが、この本を読んだり講演会を聞いた方が問い合わせをしても、既に在庫がないそうです。参与のところで扱っているマスクも在庫がないそうです。家庭の場合であれば、必要なマスクはまだ薬局で売っていると思いますので、備蓄をお勧めします。ただ、政府の推薦するマスクは、お医者さんが使うような防塵マスクで、一般にはなかなか手に入りません。政府はないものねだりの推薦をしています。我々が薬局で手に入れるとすると、不織布マスクの抗ウィルスマスクと書いてあるものを選ぶと良いでしょう。

聞いた話では、すでに一部の学校でマスクの正しい付け方と処分の仕方を教えているそうです。ウィルスはマスクの外側に付いていますから、そこを触らないように、端を掴んで中に織り込むようにしてビニール袋など密閉した所に捨てる。こういったことはちょっとした知識ですが、大変役に立つと思います。

マスク以外にも、ウィルスは目からも入りますからゴーグルが必要です。それから手袋や消毒液です。更に進んでくると、帽子や保護衣も必要でしょう。そういったものは全部、抗ウィルスの繊維で開発されつつありますが、一般に販売されているのは、まだマスクだけです。

家庭での対策を具体的に申します。

1. 保健所の電話番号を確認する

シムックスでは、すでに新型インフルエンザ対策委員会が立ち上げておりまして、「知識のワクチン&非常事態行動カード」というカードを作って、社員に配りました。そのカードには保健所の電話番号を書き込むようになっております。もし新型インフルエンザの疑いのある症状がでた場合、まず保健所に連絡をとって指示を仰ぐこととなります。もし発病しているとしたら、回りの人にうつす事になりますから、病院は門前払いになる可能

性があります。保健所経由になります。ですから皆さんも、お住まいの保健所の電話番号をメモしておくとうよろしいでしょう。

2．フェーズ4が宣言されたら、外出しない事

家庭の中で誰が外出し、誰が外出しないという事を打合せしておく必要があります。

3．食料品・飲み物類を2ヶ月半～3ヶ月分備蓄する（特にスポーツドリンクは必須である）

国立感染症研究所では、最初は1週間から2週間の備蓄を進めていました。日本人には備蓄する習慣がないので、備蓄する習慣を身に付けてもらってから、少しずつ日数を増やして、最終的には3か月分の備蓄品を家庭で持ってもらいたい、というのが国立感染症研究所の見解です。

スポーツドリンクは必須と書きましたが、実体験をした方がおられます。東京フォーラム会員の方が年末にウィルス性の風邪にかかって、「新型インフルエンザの予行演習をしました」と連絡がありました。その方は、医者からスポーツドリンクだけ飲んでいるように言われ、2日間それだけを飲んで寝ていたそうです。新型インフルエンザにかかると、胃がただれて何も受け付けなくなります。最終的に餓死して死ぬという例が多く見られるそうです。

4．抗ウィルスマスク・ゴーグル・消毒液は家族の人数分を用意する 体温計と加湿器も準備する

N E Cでは、流行時には必ず家庭で体温を測って、38 以上の家族がいたら、社員は出勤停止にするといいます。

加湿器が家庭にない場合は、濡れたバスタオルを部屋の中に干して下さい。体温計もすぐに出せるようにしておく必要があります。

5．外出先から帰った際、家へ入る前に、外で手洗い・うがい・洗顔が出来るよう配慮し、新型インフルエンザの対策の新しい生活習慣を身に付ける

舘野本部幹事の家では、家族は玄関から家に入らないで、裏の入り口で手洗いと洗顔してから家に入るという習慣が、すでに根付いたそうです。

6．体温のチェック、マスク・ゴーグル・手袋の装着、手指の消毒、洗髪の習慣を家庭

内に定着させる

これは第二段階だと思います。ウィルスは流せば良いのですから、こういう事を習慣付けると良いでしょう。ウィルスは衣服等に付着した場合、2日間で死ぬそうです。外出先から帰ったら、コート等を全部脱いで陽に当てる。最低2日間陽に当てておけば良いでしょう。

7. 家族で誰かが外出するとしたら、隔離した部屋で寝起きするようにし、保護衣・殺ウィルス箱を用意する

もし家族の誰かが発病したら隔離して、家族は一斎近寄らないようにします。そして、それなりの防具をつけて看病をする。大正時代のスペイン風邪も、隔離する事が功を奏したそうです。うつった人には近寄らない事が肝心です。

8. どうしても外出する場合は、人混みに近づかず、出来る限り人と接触しない

どうしても外出しなければならない時は、とにかく人と会わないようにします。人と会っても、近くに接触しないようにする。

新型インフルエンザが発生した場合、電車は動かさないという事になっていますが、最低限動かすとしたら、どれくらいの数まで乗せても大丈夫かという想定をして、政府は実験をしています。政府も相当、新型インフルエンザ対策に本腰を入れてきたと感じます。

9. その他

塩素系の漂白剤は有効だそうですので、これも用意しておいた方が良いでしょう。

それから宣伝するわけではありませんが、感染列島という映画が今日封切りだそうです。かなり中身が濃いようですから、私も見たいと思っています。

皆さんどうぞ知識を入れて戴いて、自分でどうするかという事を考え、対策を決めて下さい。これは見識です。そして実行する。実行する際に、命がけでやるものが胆識です。生き残ろう、生き延びようと思ったら、どうぞ今日の話をもう一度思い出して戴いて、知識・見識・胆識を身に付けて、実行して戴くようお願いいたします。

以上で本日の北関東フォーラムを終了致します。有難うございました。